

自然との付き合い方を考える

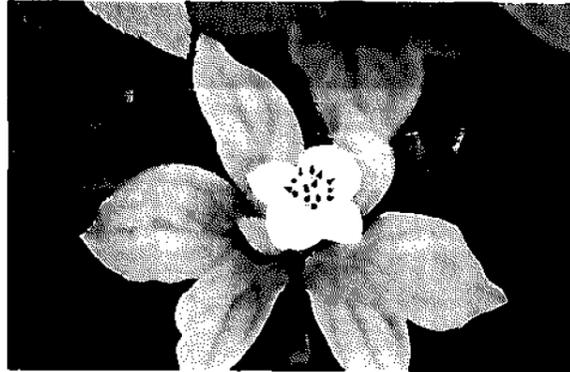
羅臼湖から思う

私たちのイベントを行っている箇所の一つに羅臼湖がある。7月末に予定していた観覧会は今年も定員45名に対し、130名近い応募はあったが、残念ながら雨天中止のため、申込者もさぞがっかりしていたことだろう。

知床と言えば五湖が有名だが、その反面あまり知られていないのが羅臼湖である。半島に幾つかある湖沼の中で、一番大きく神秘性に溢れているこの湖は、知床峠から羅臼町へ3km下った国道沿いのカーブに出入り口がある。片道2.6km程度、途中で五つの沼を巡りながらの植物観察などが出来る高地湿原コースである。しかし、近年マスコミ報道などで知られるようになったため、人の入込みも多くなり、歩道の拡大にともなう植生破壊が懸

念されることから、羅臼町観光協会などは、ネイチャーガイドやインターネットでその存在を積極的に公開し、その付き合い方(利用と保護)を考える場として情報公開に踏み切ったらしい。

自然との付き合いを考える時、国立公園に限らずこのような問題はしばしば起る。自然に足を踏み入れれば、生態系は少なからず影響を受ける。私自信も自然を案内する者として、利用させてもらう立場として自然との接し方を考えていきたい。



ひっそりと咲くゴセンタチバナ

知床の森から

北海道森林管理局北見分局 〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地
知床森林センター Tel 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160
ホムラ - デ http://www.siretoko.knc.ne.jp/

平成 11年 8月 第 62号

フタマタタンポポ(キク科)
高山帯の草原や岩礫地に育ち花は7~8月咲き高さ5~20cmの多年草黄色の花です

8月 知床は今

夏本番となり、今年も知床半島に多くの観光客が全国から訪れている。

観光でくる人、登山目的でくる人など様々である。登山客には特に斜里岳・羅臼岳の人気はすさまじい。

また、羅臼岳から硫黄山への縦走(知床連山の縦走)も人気がある。

その硫黄山の麓には若者がかならず訪れるカムイワッカがある。この川は上流で温泉が湧き、硫黄を含む温水が平滑な川床を流れており湯壺になっている。多くの観光客が訪れる所ですが、カムイワッカ地区の自然環境保全と渋滞緩和のため、7月26日から8月10日までの16日間、交通規制を行なっている



エソヒグマの散歩?

知床も観光客で賑わっている反面、マナーの悪い人もあとを絶えない。

シーズンになると観光地美化キャンペーンや美化清掃運動など、環境庁・斜里町・羅臼町の呼び掛けで行なっているが空缶等が公道沿線に散乱している。

知床半島には、原生林に守られながら色々な動物がいる。その中でも北海道を代表するエソヒグマがいる。食べ残しを捨てたり車中から餌を与えるため、人を見ると餌を貰えると思い観光客で賑わう知床五湖や国道に出没している。

ヒグマは大変危険な動物である。自然に接する場合、餌を与えたり、ゴミ・空缶を捨てたりしないようマナーを心掛け、楽しい知床の思い出の旅にして頂きたい。



知床五湖から知床連山を望む

知床の木

ハリギリ

よく肥えた土地を好むことから、北海道では肥沃度を判定する指標種とされ、開墾を進めたと言う話があります。ウコギ科のハリギリ属で、別名、セン、センノキ、タラセンなどと呼ばれ、大きな葉は天狗の羽団扇に似ていて親しみがありません。高さ25m、太さ1mになる落葉広葉樹で、用途は建築・家具・合板など北海道主産地の家具材の王様として知られ、櫛の代用に使われることも多く器具・盆・膳などにも用いられています。

名前の通り小枝にハリのような刺あり、幼木時は幹に刺がたくさんあることから、山菜でお馴染みのタラノキとよく間違えられます。

花は1本の木に両性花をつける雌雄両全で、7~8月頃に丸い形をした花を開花させ、10月頃に実が黒く熟します。

樹皮は厚く、ごつごつしていてとても特徴のある木です。

ハリギリ

よく肥えた土地を好むことから、北海道では肥沃度を判定する指標種とされ、開墾を進めたと言う話があります。ウコギ科のハリギリ属で、別名、セン、センノキ、タラセンなどと呼ばれ、大きな葉は天狗の羽団扇に似ていて親しみがありません。高さ25m、太さ1mになる落葉広葉樹で、用途は建築・家具・合板など北海道主産地の家具材の王様として知られ、櫛の代用に使われることも多く器具・盆・膳などにも用いられています。

名前の通り小枝にハリのような刺あり、幼木時は幹に刺がたくさんあることから、山菜でお馴染みのタラノキとよく間違えられます。

花は1本の木に両性花をつける雌雄両全で、7~8月頃に丸い形をした花を開花させ、10月頃に実が黒く熟します。

樹皮は厚く、ごつごつしていてとても特徴のある木です。

人事異動 8月1日付 愛媛森林管理署 宇和島事務所より 所長に 都留 浩明
8月1日付 北海道森林管理局北見分局監査官 須合 賢

中学校1年生国有林で自然体験学習終える

7月9日(金)、斜里町立宇登呂小中学校(中学1年生)の生徒さん22名が(引率教諭4名含む)、緑眩しい「知床自然観察教育林」で自然体験を行いました。

この「知床自然観察教育林」は、自然観察・教育、森林の機能の学習の場等に活用を図るため設置されており、知床半島の自然が凝縮された形で保存されているところです。

このような自然が身近にある宇登呂小中学校では、毎年、自然体験学習を実施していますが、今年は自然体験を知床自然観察教育林で実施することとしました。

引率の先生・生徒22名にセンター職員を加えた総勢25名の一行は、早速自然観察教育林に入り、自然観察の開始です。

コースは、前半は下りで後半は登りです。生徒の皆さんも、初めのうちは「下りは楽だね」と元気は良かったのですが、やや急な下りが600m続くことから途中で「ヒザが笑い出す！」人もいて苦労されていたようです。

コース内では、インストラクターから、森林のこと、植物のこと、動物のことなど一連の生態系についての説明があり、生徒の皆さんも、普段は入ることの少ない森林についての各種の説明を熱心に聞かれました。

なお、自然体験学習を終えた生徒の皆様

から、感想文を頂きました。全員の感想文を掲載したいのですが、2~3の感想文を掲載します。

今年の自然体験学習は、7月9日にありました。晴の場合はボンホ口沼周辺で、雨の場合には羅臼方面に行くことになっていました。行く前は森とがに行くのが嫌で、「雨ふんないかな」と思っていた。だけど、いざいって見ると滑る道とか嫌なこともあったけど、森林センターの皆さんがいろいろなことを聞かせてくれて、見せてもらったり、おみやげをもらったり、今までに体験したことのないことをさせてもらいました。最初は、「嫌だ」と思っていたけど、行ってみると意外に楽しかった。これも森林センターの皆さんのおかげです。ほんとにありがとうございました。

八幡 美穂

7月9日は疲れたけど、クマにも遭わず、木のことも動物のことも知って、とっても楽しかったです。木のことがもつとしたり、くもりました。ほんとうにありがとうございました。

横内 亜美

私は自然体験学習は楽しかったかと思っていたけど、案外ありませんでした。坂を上がった下り下りして、大変でした。でも、自然のことがわかりました。そして、森林センターの皆さん、自然のことを教えてくれてありがとうございました。竹とんぼなどでは楽しく遊べました。

飯川 雅子



ボンホ口沼で記念写真

第27回 森とのふれあい



真剣に除伐作業に取り組む参加者

第27回森とのふれあい「森の手助け・除伐と炭焼き」を、7月1日(木)実施しました。前日から低気圧が接近し、全道的な雨模様で、朝天候が心配されましたが、斜里町は風が吹いた程度ですみました。8歳から75歳までの23名が参加し、森林づくりと炭焼きを体験しました。除伐箇所は平成1年に植えられたアカエゾマツの人工林です。参加者は怪我やスズメバチの襲来に備え、ヘルメットに防蜂網、防蜂手袋を身にまとい、除伐に必要な鋸を腰に付け、支度を整えたあと除伐



ダケカンパの原木を切る参加者

方法についての説明や注意事項などを学び、4班に分かれて作業をスタートしました。初めはぎこちない手つきでしたが、次第にコツをつかみ、真剣な表情で除伐木を取り除いていました。昼は炭焼き会場のセンターに戻り、職員が焼いた自家製の木炭でバーベキュー。午後からは、ドラム缶を使った炭焼き法をにせて作ったステンレス製の炭窯に、ダケカンパの原木を切り、隙間がないように詰め、粘土で窯口を塞ぎ、着火するまでを体験しました。予め職員が炭焼きをし、用意していたもう一台の窯から、焼き上がった炭を取り出し焼け具合を見て、出来上がった木炭を持ち帰ってもらいました。職員から木炭の燃料としての利用の外、浄化剤、調湿、消臭、土壌改良など、さまざまな効用の説明を聞き「早速トイレに置き、消臭に利用した」という使いがありました。

応急処置法講習

ビデオと実技を交えて

昨年、安全週間中に心肺蘇生の講習を行い、救命講習が事故が起きた場合に大変役に立つということで評判がよく、今年は安全週間の中で止血法やケガをした場合の応急処置について行いました。講師を地元斜里消防署に依頼し、最近の事故などの状況と止血やケガの応急処置法についてビデオと実技の方法のレクチャーを受け、職員どうして実技練習を行いました。

止血の方法や止血ポイントの押さえ方、切り傷・擦り傷・骨折・やけど等のあ

らゆるケガに対する対処の方法や三角巾を使った応急処置、山の中でのけが人の運び方等を実技を交えて教えていただきました。

なかなか一度では覚えきれないものもあり戸惑いながらも消防署職員から丁寧にレクチャーを受け各人真剣な表情で実技をこなしていました。

最後に昨年の復習ということで心肺蘇生をもう一度行いましたが、1年経つとなかなか順序を思い出せず苦労する場面もあり、蘇生法を身につけるための日頃の復習とイメージトレーニングの大切さがわかりました。